

IX-2-2 単元「共に生きる～地球市民として～」 (久世町立遷喬小学校 第6学年)

1 単元指導計画

1-1 単元「共に生きる～地球市民として～」(全55時間)

担当者 藤木純子 小林力 柏葉一郎 地面美穂

1-2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学年の児童達は、学校行事や学習活動の中では協力することができる。しかし、教室にいるクラスメートの気持ちですら考えることもできないで行動してしまう児童や、一人になるのをおそれ、自分を出し切れずまわりとあわせてしまう児童の姿が少なくない。狭いグループで行動することが多く、少しでも考えが違くと受け入れることができないこともある。相手を思いやることができなかつたり、自分に自信がもてず、自分と相手との違いが認められなかつたりするために問題が生じていると考えられる。

また、よく知っている周りの大人に対しては繋がりが作れるが、言葉が通じにくいALTに対しては、「言葉がわからないからコミュニケーションできない」と思いこんでしまい、自分からかかわりをもっていこうとはしないなど気になる姿もある。

修学旅行先の京都で、児童たちが「外人、外人」と目を奪われていたのは、欧米中心の人たちであり、ワールドカップで少しは韓国に目が向いたとはいえまだまだ欧米中心の価値観で、近隣のアジアの国々には目が向いていない。久世町にも欧米の人よりアジアの人の方が多いが児童は気づいていない。しかし、日常生活に必要な食料品や衣料品などはアジア製のものがとても多く外国に一度も行ったこともない児童にとっても、外国(特にアジア)との繋がりなしには生活は成り立たなくなっている。だからこそ、この学習で世界(特にアジア)の国・民族について学習することが児童にとってとても重要である。なお、母親がフィリピン人の児童が一人いる。

(2) 教師の願い

上記のような児童の実態や急速に国際化する社会の実態から、世界(特にアジア)の国・民族について学習することによって、さまざまな価値観や文化を持った人々がいて、相互に関係しあいながら生きていることを実感としてつかみ、違いを違いとして認めるとともに、同じ人間としての共感をもって互いの人権を尊重しようとする態度を育てることが大切だと考え、この単元を設定した。

・内容系列表の国際のイについて

まず、もののふるさと調べを通して、私たちの暮らしが、世界のいろいろな国、特にアジアの地域と深い繋がりにあることに気づいてほしい。また、日本に住んでいるアジアの人に直接出会うことによって、その人の考え方を知り、その国や民族の文化や価値観を知ってほしいと考えている。ここでの重要なポイントは、単に外国のことを知り知

識を増やし、物知りの児童にするのではなく、顔の見える人との出会いからその国や民族の文化や価値観に対して肯定的にとらえられるようにすることである。肯定的にとらえるということは、違いを違いとして認め合い、その中に人としての営みの共通性を見つけることだと考えている。

・内容系列表の国際のウについて

小単元1での人との出会いから気づく、在日外国人（特に、在日コリアン）の直面している現実認識を通して、共に生きることを阻む課題に気づかせたい。そして、それについて自分たちで調べていく中で、在日コリアンとして誇りを持って生きている人や、課題解決のために活動している人との出会いを通してその人の考え方や生き方を知り、その課題は決して自分たちと無関係ではないことに気づき、今まで自分たちがあたりまえと思っていた考え方・価値観が揺さぶられ、そこから「これまでの自分の生き方はどうだったのか」「共に生きるにはどうすればいいか」を考えてほしいと思っている。そして、自分に自信を持ち、友達との関わり方や周りの人とのコミュニケーションの仕方など今までの生活を見直し、変えていってほしい。さらに、共に生きる社会の実現のために、地域で自分たちのできることを見つけ、行動できるようにしていきたい。

1-3 単元の目標

探究活動や誇りを持って生きている人の話を聞くことを通して、国際人として共に生きる意義や必要性に気づき、それを元に自分にできることを見つけ、行動できるようにする。

1-4 単元の評価規準

○関心・意欲・態度

①自分から進んでアジアの人々の生活や文化および出会った人の生き方について関心を持って調べ、学ぼうとする。

○思考・判断

①聞き取りや出会いを通して、アジアの人々の生き方や誇りや日本に対する見方を学び、自分のアジアの人々に対する見方を考えることができる。

②在日コリアンとの出会いから、共に生きる事を阻む壁をなくす努力や、それを乗り越えようとする生き方について共感的に考えることができる。

③国際人として、生きていく上で大切な価値観を整理するとともに、自分の生活の見直すところを考え出すことができる。

○技能・表現

①ねらいに即して、大事なことをメモしながら聞くことができる。

②様々な方法で調べたいことや考えたいことを自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。

○知識・理解

①自分たちの暮らしはアジアの国々と繋がりが深いことを理解する。

②アジアの人たちと日本との生活・文化・価値観の違いと共通点を理解する。

③在日コリアンが日本社会で生きるとき、制度的壁と心の壁があることを知る。

1-5 活動の展開と評価計画

学 習 活 動	支 援 (方法・内容)	評 価 規 準				評 価 資 料
		関 心 意 欲 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解	
小単元1 アジアと出会おう						
1 物のふるさとを調べる。(課外) ・自分たちの身近な生活の中にある外国製の物を探す。	・具体的な例を提示し、探そうとする意欲を高める。					
2 自分たちのくらしと外国の繋がりについて知る。(1)	・外国との繋がりをわかりやすくするために、物のふるさとを世界地図に表す。				①	ワークシート
3 アジアについて調べる。(5) ・イメージ(本人・周囲の人) ・そのイメージはどこから? ・久世(日本)の在日外国人の数 ・日本人はどう思われているか	・日本の近隣諸国(中国・フィリピン・朝鮮半島)について調べさせて、イメージを持ちやすくする。 ・暮らし ・言葉 ・音楽や踊り ・習慣や文化 ・食べ物 ・遊び ・教育 ・日本との繋がり等 ・児童だけで調べられないことについては、教師が資料を提示する。	①				ワークシート
4 県内に住む外国の人に話を聞く。(6) ①在日フィリピン人から話を聞こう。	・興味を持ちやすい遊びや料理を通して、楽しみやすくする。	①	①	①	②	観察
②在日コリアンから話を聞こう。	・聞くポイントを事前に指導しておく。 ・その国の生活や文化 ・日本に住んでいる理由 ・日本・日本人の印象 ・日本で暮らして思うこと ・生きる上で大切にしていること	①	①	①	②	観察
5 学んだことを作文にまとめて発表する。(8)	・前の自分が持っていたイメージと変わったところと、生き		①			作文

	方から学んだことをはっきりと書くよう指示する。 ・友達の考えを大切にしよう声かけをする。					
小単元2. ともに生きるには — 私たちにできることは? —						
1 在日コリアンが日本で生きるときに直面している問題の歴史的・社会的背景を調べるための個人の課題を考える。(4+課外)	・児童が疑問をもちやすくするために今までの学習に加えて、在日コリアンの小学生の作文やビデオを用意する。 共に生きるための努力をしている人との出会いを用意する。 ・児童の追求がより深まるように、面接をする。	①				ワークシート
2 似た課題ごとのグループで調べ方を考える。(1)	・各グループと面接し、なかなか思いつかないグループには助言する。		②			面接
3 グループで調べる。(10)	・各グループと面接する。			②		手紙・アンケート、ワークシート 発表用原稿 面接
4 発表に向けてまとめる。(8)	・調べたことが生かせ、わかりやすくまとめることができるよう助言する。 ・色々なまとめ方や発表形式があることを紹介し、各グループで友達によく伝わるように発表できるようにする。		②			
5 発表会をして、話し合う。(6)	・友達の発表をメモし、質問や意見が言えるようにする。 ・朝鮮学校の校長先生に来ていただいて、意見をもらう場を用意する。		②		③	発表内容、ワークシート
6 今までの学習を元に自分の生き方を見つめ直したり自分ができることを考えたりして作文にまとめ、行動にうつす。(3+課外)	・小単元1や小単元2で出会った人の生き方から学んだことを元に、自分を見つめ直し、さらに自分たちの身近なところに目を向けて、行動できることを考えるよう支援する。		③			作文

1-6 評価基準

学習活動	評価規準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
＜小单元1＞						
2 自分たちの暮らしと外国の繋がりについて知る。	知識・理解①	自分たちの暮らしはアジアの国々との繋がりが深いことを理解する。	ワークシート	日本はアジアの国からたくさんのお品を輸入していること、製品によって地域が決まっていることを書いている。	日本はアジアの国からたくさんのお品を輸入していることを書いている。	日本はアジアの国からたくさんのお品を輸入していることが書かれていない。
3 アジアについて調べる。	関心・意欲・態度①	近隣諸国（中国、韓国、フィリピン）について進んで調べようとする。	ワークシート	ワークシートの設問にすべて記述があるとともに、複数の人にインタビューして記述している。	ワークシートの設問にすべて記述がある。	ワークシートの設問のすべてには答えていない。
4 県内に住む外国の人に話を聞く。	関心・意欲・態度①	出会った人の生き方を、進んで学ぼうとする。	観察ワークシート	メモをとろうとし、質問したり話しかけたりしようとする。	メモをとろうとしている。	質問したり話しかけたりしようとし、メモもとろうとしない。
	①在日フィリピン人から話を聞こう。	思考・判断①	ワークシート	生活・文化の違いと共通点に関係ある内容やその人の価値観に関する内容を選んでいる。	生活・文化の違いと共通点に関係ある内容を選んでいる。	生活・文化の違いと共通点に関係ある内容を選んでいる。
		技能・表現①	ねらいに即して、大事なことをメモしながら聞くことができる。	ワークシート	出会った人の思いなどをポイントを押さえてメモしている。	出会った人の思いなどをメモしている。
②在日コリアンから話を聞こう。	知識・理解②	アジアの人たちと日本との生活・文化・価値観の違いと共通点を理解する。	ワークシート	生活・文化の違いと共通点、生きる上で大切なことについて記述している。	生活・文化の違いと共通点について記述している。	生活・文化の違いと共通点のいずれかしか記述していない。
5 学んだことを作文にまとめて発表する。	思考・判断①	出会った人の生き方から自分のアジアの人に対する見方を考えることができる。	作文	最初に持っていたイメージと比べた記述があるとともに、出会った人の生き方のすばらしい点についての記述がある。	最初に持っていたイメージと比べた記述がある。	最初に持っていたイメージと比べた記述がない。
＜小单元2＞						
1 在日コリアンが日本で生	関心・意欲	在日コリアンの小学生の作文やビデオを	ワークシート	調べてみたい課題を2つ以	調べてみたい課題を1つ書	調べてみたい課題を書いて

きるときに直面している問題の歴史的・社会的背景を調べるための個人の課題を考える。	態度①	もとに、調べてみたい課題を作ろうとする。	一 ト	上書いている。	いている。	いない。または、書いてあっても教師の願いとかけ離れている。
2 似た課題ごとのグループで調べ方を考える。	思考・判断②	様々な方法で調べたいことや考えたいことを自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。	面接	課題解決ができる最適な方法を考えている。(ねらい・地域性を考慮して判断する。)	課題解決ができる方法を考えている。	課題解決ができない方法を考えている。
3 グループで調べる	技能・表現②	課題を解決するための手紙やアンケートなどを書くことができる。	手紙・アンケート、ワークシート	課題に対する自分の思いと尋ねたいことを自分の言葉でまとめている。	尋ねたいことを自分の言葉でまとめている。	尋ねたいことや書いているが、課題とずれている。
4 発表に向けてまとめる。	思考・判断②	課題解決に必要な内容を選び、それをもとに考えをまとめる。	発表原稿、ワークシート	自力で課題に対する自分たちの考えをまとめている。	支援されながら課題に対する自分たちの考えをまとめている。	支援されても、課題に対する自分たちの考えがまとまっていない。
5 発表会をして、話し合う。	知識・理解③	在日コリアンが日本で生きていくとき、制度的壁と心の壁があることを知る。	発表内容 / ワークシート	両方の壁について、発表またはワークシートに記述がある。	2つの壁のうち、どちらか1つについて発表、またはワークシートの記述がある。	阻む壁についての記述がない。
	思考・判断②	発表を聞いて、自分の考えを深めることができる。	ワークシート	友達の考えと自分の考えを照らし合わせて、自分の考えを深めた記述がある。	友達の考えに共感する記述がある。	友達の考えに対する記述がない。
6 今までの学習を元に自分の生き方を見つめ直したり自分ができたりすることを考えたりして作文にまとめ、これからの生活に生かす。	思考・判断③	国際人として生きていく上で大切な価値観をセイルするとともに、自分の生活の見直すところを出することができる。	作文	自分の生活をふり返り、これからの生き方をよりよい方向に変えていこうとする記述がある。	自分の生活をふり返った記述がある。	自分の生活のふり返り内容が、今までの学習とはかけ離れているか、自分のことしか書いていない。

2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

○小単元1 「アジアと出会おう」

学習活動2 自分たちの暮らしと外国との繋がりについて知る。

(1) 指導・学習の過程

最初に課外で自分たちが探した身近な生活の中にある外国製の物のふるさとを世界地図に表す作業を行った。品物の種類をシールで色分けをして世界地図に貼り、どの国でどんな物が作られ自分たちの生活に関係があるのか分かるようにした。次にその世界地図をもとに、自分たちの暮らしと外国とどんな繋がりがあるか気づいたことをワークシートにまとめさせた。そして、気づいたことを発表する中で、自分たちの生活に最も必要な食料や衣類などをアジアの国々からたくさん輸入していること、つまり自分たちの暮らしはアジアの国々と最も繋がりがあることに気づくことができるようにした。

(2) 評価結果

学習活動の最後にワークシート NO 1 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
知識・理解①	自分たちの暮らしはアジアの国々と繋がり深いことを理解する。	23人	54人	4人

(3) 指導の改善と実施

本時の評価規準は、自分たちの暮らしがアジアの国と深い繋がりがあることが分かることである。2以上の評価結果の児童は79名でほとんどであり、アジアの国に目を向けることができたと考えられる。国によって品物が違うことまでは気づかなかった児童も多いが、それはこれからの学習の中で少しずつ考えていけばよいと考え、予定通り近隣諸国を調べる学習に移ることにした。なお、1の評価の4名は、ワークシートに記入できていなかったため、物のふるさとを表した世界地図の意味を確認して何か気づくことはないか訪ねた。結果は、アジアの国からの製品が多いということには気づくことができていた。

学習活動3 アジアについて調べる。

(1) 指導・学習の過程

子どもたちとの話し合いで、自分たちの暮らしと繋がり深いアジアの国の中から、中国、朝鮮半島、フィリピンについて調べることに決めた。全員どの国も調べることが

できるよう、それらの国の生活や文化が分かる資料を用意した。そして、他の国を理解するためにはその国の人について理解する必要があると考え、自分が調べたことからそれらの国の人々に対するイメージを持つようにした。より関心を高めるために、家族や近所の人々がどんなイメージを持っているか聞き取り調査をさせた。全員自分が持ったイメージや聞き取り調査をしたイメージを発表してイメージ別に張り出すことによって、人によっていろいろなイメージを持っていること、つまり資料で調べるだけでは正しいことは分からないことに気づくようにした。そこで、どうすればそれらの国の人たちについて正しく知ることができるか話し合う中で、それらの国の人に会いたいという気持ちが高まるようにした。

(2) 評価結果

調べ活動終了後ワークシート No. 2 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・ 態度①	近隣諸国（中国、韓国、フィリピン） について進んで調べようとする。	36人	43人	4人

(3) 指導の改善と実施

ワークシートを見ると、ほとんどの児童79名が中国、朝鮮半島、フィリピンについて調べ、それらの国の人に対するイメージを持つことができていた。その中の34名の児童は家族や近所の人など大勢にインタビューすることができていた。資料を読み取ることができなかった児童やイメージを持つことができていない児童が4名いたが、友達の発表を参考にして自分の考えを持つことができるであろうと考え、予定通りイメージを発表して交流する学習活動に進めていった。発表の中で、友達のイメージに対して疑問を持つ子も多く、もっと深く知りたい、それらの国の人に会いたいという気持ちが高まっていった。ワークシートに書いていない児童も友達の発表を参考にしてイメージを持ち、発表することができた。

学習活動4 県内に住む外国の人に話を聞く。

① 在日フィリピン人から話を聞こう。

(1) 指導・学習の過程

まず在日フィリピン人との出会いを用意した。フィリピン料理を教えてもらって作ったり、遊びや歌を教えてもらったりして、和やかな雰囲気にしてから話を聞くようにした。話の内容は次のことをお願いした。

フィリピンの生活や文化・価値観
日本に住んでいるわけ
生きていく上で大切にしていること
日本に対する印象

児童には次の活動のために、ワークシートにメモを取りながら聞き、話を聞いて分かったことをまとめておくようにさせた。

(2) 評価結果

学習活動中と終了後に観察やワークシート NO 3 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度①	出会った人の生き方を進んで学ぼうとする。	42人	39人	0人
思考・判断①	メモの中からアジアの人に対する見方を考えるために必要な内容を選ぶことができる。	22人	55人	4人
技能・表現①	ねらいに即して、大事なことをメモしながら聞くことができる。	25人	52人	4人
知識・理解②	アジアの人たちと日本との生活・文化・価値観の違いと共通点を理解する。	22人	55人	4人

(3) 指導の改善と実施

全員の児童がメモを取りながら関心をもって聞くことができた。また自分から進んで話しかけたり質問したりすることもできていた児童が22名いた。実際に人に出会うという活動は、児童の意欲を高めると考える。しかし、メモを見ると話をされたことをだらだらと書いている児童が多く、ポイントを押さえながら書けていると判断できる児童は、25名と少なかった。事前にポイントを押さええたメモの取り方を指導しておくべきであった。

メモをもとにまとめたワークシートを見ると、多くの児童79名が生活や文化の違いや共通点は記述していたが、生きるうえで大切にしていることについて記述できている児童は22名と少なかった。そこでそのことについて記述している児童のワークシートを紹介し、出会った人の話を再確認した。まとめができていない児童には再確認した内容をまとめとして書かせた。

学習活動4 県内に住む外国の人に話を聞く。

② 在日コリアンから話を聞こう。

(1) 指導・学習の過程

続いて、在日コリアンとの出会いを用意した。話の内容は次のことをお願いした。

自分の生い立ち 朝鮮半島の区国の生活や文化 日本に住んでいるわけ 生きていく上で大切にしていること 日本に対する印象
--

児童には前回の反省から、事前にメモの取り方を指導した。そして前回と同様にワークシートにメモを取りながら聞き、話を聞いて分かったことをまとめておくようにさせた。

(2) 評価結果

学習活動中と終了後に観察やワークシート NO 3 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度①	出会った人の生き方を進んで学ぼうとする。	18人	62人	0人
思考・判断①	メモの中からアジアの人に対する見方を考えるために必要な内容を選ぶことができる。	42人	34人	4人
技能・表現①	出会った人の生き方をメモを取りながら聞くことができる。	53人	24人	3人
知識・理解②	日本との生活・文化・価値観の違いや共通点を知ることができる。	42人	34人	4人

(3) 指導の改善と実施

前回と同様、全員の児童がメモを取りながら関心をもって聞くことができたが、話を聞く場面しか設定しなかったために話しかけたり質問したりする時間が少なく、関心・意欲・態度の評価結果で3に到達している児童が18名と少なくなってしまった。しかし、児童のメモを見るとポイントを押さえながら書けたと判断できる児童が53名に増えたところから考えると、関心・意欲・態度の評価基準はおおむね達成できたと考える。また技能については事前の指導が大切であると感じた。

メモをもとにまとめたワークシートを見ると、多くの児童76名が日本との違いや日本に住んでいるわけなどを記述することができていた。生きるうえで大切にしていることも42名の児童がまとめることができた。しかし、過去の歴史上の出来事の意味が本当に理解できているかどうか判断し兼ねた。そこで前回と同様に出会った人の話を再確認する時間を持った。

学習活動5 学んだことを作文にまとめて発表する。

(1) 指導・学習の過程

二人の在日外国人の話聞いて学んだことを作文にまとめる活動を行った。前時までのメモを取ってまとめたワークシートを参考にして書き進めさせた。作文に書く内容として、日本との生活や文化の違いや共通点、生きるうえで大切にしていることやそれに対する自分の考えを必ず入れるように提示した。そして、学んだことから前の自分が持っていたイメージがどのように変わったかについて考え、まとめとして書き入れるようにさせた。

発表の場面では、友達の発表に対して自分の感想や意見を発表させたりカードに書かせたりして、考えを交流しあい、深めていくことができるようにした。

(2) 評価結果

学習活動後に作文で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断①	出会った人の生き方からアジアの人に対する見方を考えることができる。	32人	51人	0人

(3) 指導の改善と実施

作文を見ると、出会った人の生き方に共感している記述が多く、生きていく上で大切なことは何か考えることができていた。また最初にもっていたイメージが大きく変わり、一生懸命生きていることに共感しているイメージを持った児童がほとんどであった。作文を苦手としている児童には個別に面接を行い、どんな考えをもったか確認しながら文章を作っていた。どの児童も何とか仕上がり、発表することができ、全員評価基準2を達成できたと判断した。

また、出会った人の話からさらに疑問を持った児童もいた。そこでその疑問を学年全体に広げ、次の小単元に進むことにした。

○小単元2 「ともに生きるには ー私たちにできることは?ー」

学習活動1 在日コリアンが日本で生きるときに直面している問題の歴史的・社会的背景を調べるための個人の課題を考える。

(1) 指導・学習の過程

小単元「アジアと出会おう」の学習で、在日コリアンの生き方に疑問を持ち始めた。その疑問をより明確にするために、在日コリアンの作文やビデオを見させ、課題を作るようにした。また、自分の課題に対する思いをより強くするために、在日コリアンと在

日コリアンが抱えている問題を解決するために努力している人との出会いを用意した。

(2) 評価結果

学習活動中にワークシートで評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度①	在日コリアンの小学生の作文やビデオをもとに調べたい課題を作ろうとする。	79人	3人	0人

(3) 指導の改善と実施

どの児童も在日コリアンの生き方に迫る課題を考えることができていた。また、在日コリアンや在日コリアンが抱えている問題を解決するために努力している人との出会いにより、自分の課題を追究していきたい気持ちがより高まってきた。それは、児童一人一人に「なぜこの課題にしたのか。」と訪ねることにより判断できた。同じ課題でも一人一人思いが微妙に違うが、調べたいという意欲がひしひしと伝わってきた。

学習活動2 似た課題ごとのグループで調べ方を考える。

(1) 指導・学習の過程

課題に対する思い、小単元「アジアと出会おう」の評価結果をもとに課題ごとの小グループに分けた。そして、まず自分の課題に対する思いを伝え合うことで共通理解を図り、調べ方を考えさせるようにした。本やインターネットなどいろいろな調べ方があるが、文章だけによる知識を得るのではなく思いのこもった知識を得させるために今まで出会った人や身近な人により詳しく聞くことをアドバイスしていくようにした。

(2) 評価結果

各グループと面接を行う中で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断②	課題を解決することができる方法を考えることができる。	78人	2人	0人

(3) 指導の改善と実施

どのグループも、今まで出会った人や政府、高校野球連盟に聞く方法や町内の人からアンケートをとるという方法を考えていた。そこで、予定通り自分たちが考えた方法で調べる活動に進めていった。

学習活動3 グループで調べる。

(1) 指導・学習の過程

次の点が相手によく伝わるように手紙やアンケートなどを考えさせるようにした。

- ・なぜその課題について調べようとしているのか。
- ・誰にでも答えてもらえるように何を聞きたいのかはっきりさせる。

(2) 評価結果

学習活動後に児童が書いた手紙やアンケート，ワークシート No. 5 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
技能・表現②	様々な方法で調べたいことや考えたいことを自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。	51人	22人	6人

(3) 指導の改善と実施

質問するための手紙やアンケートは，教師がグループごとに支援していったので評価規準を達成できていた。しかし，一人一人が関わっているかどうかは判断できないので，振り返りのワークシート NO 5 を使って，個人の振り返りをさせた。6名の児童が訪ねたいことをグループの中で言えなかったと振り返っていた。そこで，この6名については今後の調べ学習の中で個別に支援していくことにした。

学習活動4 発表に向けてまとめる。

(1) 指導・学習の過程

手紙の返事やアンケートの結果の中から，課題解決に必要な内容を選び，それをもとにまとめていくようにした。一人一人が関わるようにワークシート No. 6 に今日調べて分かったことやグループで話し合ったことを記述させるようにした。

(2) 評価結果

児童が書いた発表用原稿とワークシート No. 6 で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断②	課題解決に必要な内容を選び，それをもとに考えをまとめる。	27人	51人	5人

(3) 指導の改善と実施

ワークシートに書けていない児童が5名いた。その5名が入っているグループについては発表内容をもう一度確認するようにした。また、課題に対して自分たちの考えを自力でまとめられていないグループには、わかりやすい資料を渡したり、ポイントを教えたりしてまとめることができるようにしていった。

学習活動5 発表会をして、話し合う。

(1) 指導・学習の過程

似た課題ごとに質問や意見の時間を取った。また、朝鮮学校の校長先生を招き、コメントをいただくようにした。聞く側には、質問や意見、感想をワークシートNo.7に書かせ、意見を言えなかった児童の考えを発表会後見て、どのグループも参考にできるようにした。そして、自分たちの考えをもう一度まとめなおして2回目の発表会を行った。

(2) 評価結果

1回目の発表内容とワークシートNo.7で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
知識・理解③	在日コリアンが日本社会で生きるとき、制度的壁と心の壁があることを知る。	79人	0人	0人
思考・判断②	発表を聞いて自分の考えを深めることができる。	9人	64人	6人

(3) 指導の改善と実施

発表内容とワークシートNo.7から、全児童が制度的壁と心の壁があることに気づくことができた判断することができた。また、ほとんどの児童が友達の考えに共感していることや2回目の発表内容から自分の考えを深めることができた判断した。ワークシートに記述がない6名は、次の学習活動で考えを深めていけばよいと考え、予定通り進めていった。

学習活動6 今までの学習を元に自分の生き方を見つめ直したり自分ができることを考えたりして作文にまとめ、これからの生活に生かす。

(1) 指導・学習の過程

今まで学習した在日コリアンに対する差別について自分の考えをまとめさせた。そして、自分の今までの生活のなかで、友達に対して、障害のある人に対して、外国の人に対してどうであったか見つめ直し、これからの生き方を考えて作文に書かせるようにした。友達がどんな考えを持っているか、より関わり合うことができるよう作文の発表会

も行った。

(2) 評価結果

児童が書いた作文で評価した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断③	国際人として生きていく上で大切な 価値観を整理するとともに、自分の 生活の見直すところを考え出すこと ができる。	76人	5人	2人

(3) 指導の改善と実施

ほとんどの児童が自分の生活を素直に振り返り、これからの生き方を考えることができていた。評価1の児童は、作文の内容について勘違いしていたので、個別指導を行い、書き直しをした。評価2の児童には、友達の作文の発表を参考にして不足していることを書き加えるよう指示した。最終的には、全員が評価基準3を達成できた。

2-2 自己学習力の向上に向けた工夫

(1) 第1レベルの工夫

①「アジアと出会おう」学習活動4-1

在日フィリピン人と出会う前に、各自が書いた質問について、どんな質問がこの学習においてのよりよい質問かの評価を行った。このことにより、自信をもって質問できる子が増え、学習により意欲的に取り組めたと考えられる。

②「アジアと出会おう」学習活動4-2

学習活動4-1で書いたメモやワークシートを使って、教師がポイントをおさえたメモの取り方とこの学習での評価規準を示した。このことにより、この学習でのめあてや話を聞くポイントが明らかになり、ほとんどの子どもが、話を聞いた後のメモに、その人が日本に住んでいる理由・生きる上で大切にしていること・日本に対する印象など、その人の思いが書け、学習に意欲的に取り組めたと考えられる。

③「アジアと出会おう」学習活動5

作文の発表後、作文の内容・発表の仕方について、子ども相互による他者評価を行った。クラスの子ども全員がそれぞれの子どもに、感想を書いて渡した。このことにより、どの子ども発表することに自信をもち、次の学習に意欲的に取り組もうとしている。また、声の大きさについての指摘をもらった子は、次は大きな声で発表したいと次の発表時の学習のめあてにつながっている。内容については、友達の感想や意見によって、自分が伝えたいことをきちんと書けていること、大事なことに気づけていることがわかり、次の学習への意欲につながっている。次に、友達の評価をもらった子どもの感想を紹介

する。

みんなが、私の伝えたいことを感想にたくさん書いてくれていて、とってもうれしかった。みんなが、私のいいところをたくさん書いてくれて、「私は、みんなにいいところをたくさん見つけてもらっているんだな」と思ったら、心の底からうれしい気持ちでいっぱいになりました。言っているときには、はずかしくてだめだとか思ったけど、みんなが感想にいいところを書いてくれたので、前よりも勇気がついたと思います。

みんな、自分のおもっていることや、日本との違いをわかりやすく書いていた。フィリピンと日本の子の違いを書けていたなどきちんと聞いていてくれたんだなという事がすごく良くわかったので、とってもうれしかった。考えた事を行動に移せたらいいねと書いてくれた人がいたので、がんばってみようと思った。

自分のことを反省しているということをほとんどの人が書いていたけど、うれしかった。私の話を聞いてくれて、自分もなおそうと思ってくれた事がうれしかった。小さい声でしゃべっていたけど、ちゃんとみんなは話を聞いていてくれたのでよかった。あと、発表の時は、もっと大きい声で言っていると書いていたので、今度から声を大きくして、みんなに聞こえるようにしたいです。わかりやすく書けているかどうか心配だったけど、ちゃんとわかりやすく書いていたと、書いていた人がいたのでうれしかったです。

④「ともに生きるには」学習活動1

自分がしらべてみたい課題を作った後、教師が子ども一人一人と面接をし、なぜその課題を調べたいのかという思いとどう調べるかを考えているかを聞いた。このことにより、次の調べる活動での意欲が高まり、グループで手紙やアンケートを作るとき、自分の思いをすすんで話す子どもがいたり、相手に良く伝わる内容のものが書けていたりした。

⑤「ともに生きるには」学習活動3

質問するための手紙やアンケートを作成する活動について、振り返りをさせた。そのためのワークシートには、振り返りの視点（評価規準に沿うもの）を示し、自己評価させた。その自己評価をもとに、次時の活動時における自分の目標を考えさせた。このことにより、児童一人一人が自分の活動の意味を考え、次時にはさらに学習が深まるような目標を考える児童が増えた。

⑥「ともに生きるには」学習活動6

自分の生活を振り返り、これからの自分の生き方を考えた作文をみんなの前で読むことにより、これまでの学習がよかったことを確認し、これからの生き方についての意欲づけとした。

(2) 第2レベルの工夫

①「ともに生きるには」学習活動4

文章に書いたものを読むという発表ではないため、自分の考えをしっかりとつために毎時間振り返りをさせた。ワークシートに児童一人一人の目標についての振り返り欄を入れ、自分がたてた目標について自己評価し、それを次に生かすということを繰り返した。この自己評価を重ねることにより、まとめの内容が深まったり、お互いに協力しあってよりよい発表をしたいという学習意欲につながったりした。

②「ともに生きるには」学習活動5

1回目の発表時に、児童一人一人に評価規準を作成させ、それについての自己評価をさせた。このことにより、自分たちの発表のよかったところ、まだ深めなければならないところの意識化ができ、2回目の発表に向けての意欲が高まり、内容もより深くなった。

1回目の発表の時に、大きな声でみんなの方を向いてということはできたけど、内容がよくわかるようにまとまっているかどうかというところの自己評価がもう少しだったので、2回目の時にはがんばりたい。朝鮮学校の校長先生の言われたことも入れたいと思う。

この感想のように、2回目の発表に向けて意欲的に取り組む児童が増え、2回目の発表ではどのグループも1回目よりさらに内容が深まった。

2-3 外部への説明責任に向けた実践

(1) 単元の総括的評価結果

本単元を学習して学習効果について「関心・意欲・態度」については小単元「アジアと出会おう」の学習活動3、4と小単元「ともに生きるには」の学習活動1の総和で、「思考・判断」については小単元「アジアと出会おう」の学習活動5と小単元「ともに生きるには」の学習活動4、5、6の総和で、「技能・表現」については小単元「アジアと出会おう」の学習活動4-1、4-2と小単元「ともに生きるには」の学習活動3の総和で、「知識・理解」については小単元「アジアと出会おう」の学習活動4-1、4-2と小単元「ともに生きるには」の学習活動5の総和で観点別の学習効果の検討を行った。

①「関心・意欲・態度」について

観点	評価基準			
	A(3)	B(2)	C(1)	合計
関心・意欲・態度① (小単元「アジアに出会おう」学習活動3)	36人	43人	4人	83人
関心・意欲・態度②				

(小单元「アジアに会おう」学習活動4-1)	42人	39人	0人	81人
関心・意欲・態度③ (小单元「アジアに会おう」学習活動4-2)	18人	62人	0人	80人
関心・意欲・態度④ (小单元「ともに生きるには」学習活動1)	79人	3人	0人	82人
①+②+③+④	175人	147人	4人	326人

総計すれば、評価3が326人中175人、2が147人であり、合計322人で約99%が目標を達成したことになる。関心・意欲・態度の観点はほぼ達成されたと考える。

②「思考・判断」について

観点	評価基準			
	A(3)	B(2)	C(1)	合計
思考・判断① (小单元「アジアに会おう」学習活動5)	32人	51人	0人	83人
思考・判断② (小单元「ともに生きるには」学習活動4)	27人	51人	5人	83人
思考・判断③ (小单元「ともに生きるには」学習活動5)	9人	64人	6人	79人
思考・判断④ (小单元「ともに生きるには」学習活動6)	76人	5人	2人	83人
①+②+③+④	144人	171人	13人	328人

評価3が328人中144人、2が171人であり、合計315人で、96%が目標を達成したことになる。思考・判断の観点については達成されたと考える。

③「技能・表現」について

観点	評価基準			
	A(3)	B(2)	C(1)	合計
技能・表現① (小单元「アジアに会おう」学習活動4-1)	25人	52人	4人	81人
技能・表現② (小单元「アジアに会おう」学習活動4-2)	53人	24人	3人	80人
技能・表現③ (小单元「ともに生きるには」学習活動3)	51人	22人	6人	79人
①+②+③	129人	98人	13人	240人

評価3が240人中129人、2が98人であり、合計227人で、約95%が目標を達成したことになる。技能・表現の観点についてはほぼ達成されたと考える。

④「知識・理解」について

観点 (評価場面)	評価基準			合計
	A(3)	B(2)	C(1)	
知識・理解① (小単元「アジアに会おう」学習活動4-1)	22人	55人	4人	81人
知識・理解② (小単元「アジアに会おう」学習活動4-2)	42人	34人	4人	80人
知識・理解③ (小単元「ともに生きるには」学習活動5)	79人	0人	0人	79人
①+②	143人	89人	8人	240人

評価3が240人中143人、2が89人であり、合計232人で、約97%が目標を達成したことになる。知識・理解の観点についてはほぼ達成されたと考える。

(2) 単元における個人内評価結果

次に、A、B、C児の3名を事例にしながら、個人内評価結果の特質について検討する。そのため、まず、3人の児童の<個人内評価結果表>を示すと、次のようである。

<個人内評価結果表>

		アジアと会おう			ともに生きるには					評定	
		学習活動3	学習活動4		学習活動5	学習活動1	学習活動3	学習活動4	学習活動5		学習活動6
			①	②							
A児	関心意欲態度	2	3	3		3					A
	思考・判断				2			2	2	3	B
	技能・表現		2	3			3				A
	知識・理解		2	3					2		B
B児	関心意欲態度	2	2	2		3					B
	思考・判断				3			3	3	3	A
	技能・表現		2	2			2				B
	知識・理解		3	3					3		A
C児	関心意欲態度	1	1	2		2					C
	思考・判断				2			2	2	3	B
	技能・表現		1	2			2				B
	知識・理解		2	2					2		B

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上、Bは60%以上、Cは59%以下であることを示している。

① 観点間経時的評価

A児は、小単元1「アジアと会おう」においては、関心・意欲・態度、技能・表現、知識・理解とも2から3へと向上するものの、思考・判断は2にとどまっている。小単元2になると、関心・意欲・態度と技能・表現は3という高い発達の水準を維持おり、また、思考・判断も次第に向上し、3となっているが、しかし、知識・理解は2へとや

や下降する傾向がみられる。小単元2において、活動4-1と学習活動4-2で同じワークシートを使用したのが児童がそれに慣れてきたためと思われる。なお、評定は「A・B・A・B」であった。

B児をみると、小単元1「アジアと出会おう」においては、思考・判断と知識・理解ではともに3という高い発達の水準にある反面、関心・意欲・態度と技能・表現は2にとどまっている。小単元2になると、技能・表現は2のままであるが、他の3つの観点ともに3という高い発達の水準を保ったまま推移している。小単元1「アジアと出会おう」の学習活動5のあたりから評価結果がよくなっているのは、この時点で分かったこと、疑問に思ったことなどを自分なりに考えをまとめることができるようになってきたためだと思われる。評定は「B・A・B・A」であった。

C児をみると、小単元1「アジアと出会おう」においては、思考・判断と知識・理解ではともに2であるが、関心・意欲・態度と技能・表現は1から2へと向上がみられる。そして、小単元2になると、思考・判断は2から3へと尻上がりに上昇し、他の3つの観点は2を維持するという構造的な特質がみられる。なお、評定は「C・B・B・B」であった。

②観点内経時的評価

A児をみると、関心・意欲・態度は2→3→3→3というように、2から3へと上昇し、その高い発達の水準のまま推移しており、評定もAであった。思考・判断をみると、2→2→2→3というように、2を維持しつつ、最後には3へと上昇している。評定はBであった。技能・表現をみると、2→3→3というように、2から3へと上昇し、その高い発達の水準のまま学習を終了しており、評定もAであった。知識・理解は、2→3→2というように、上昇と下降を繰り返しており、評定はBであった。

なお、A児と類似の発達傾向を示す児童は他に5名いた。

B児をみると、関心・意欲・態度は2→2→2→3というように、2を維持しつつ、最後には3へと上昇して学習を終了している。評定はBであった。思考・判断と知識・理解をみると、それぞれ3→3→3→3、3→3→3というように、ともに3という高い水準の発達を維持したまま推移しており、評定もともにAであった。技能・表現をみると、2→2→2というように、2の水準のまま推移しており、評定はBであった。

なお、B児と類似の発達傾向を示す子は他に3名いた。

C児をみると、関心・意欲・態度と技能・表現は、それぞれ1→1→2→2、1→2→2というように、ともに尻上がりに向上している。評定は、それぞれC、Bであった。一方、思考・判断は2→2→2→3というように、2を維持しつつ、最後には3へと上昇して学習を終了しており、評定はBであった。知識・理解は2→2→2というように、2の発達の水準のままに推移しており、評定はBであった。

なお、C児と類似の発達傾向を示す子は他に4名いた。